

祝 辞

このたび、新居浜工業高等専門学校が創立50周年を迎え、本日ここに記念式典が文部科学省はじめ、愛媛県、新居浜市並びに多くの地元関係者の皆様方のご列席のもと挙行されますことは、国立高等専門学校機構として大きな喜びとするところです。

新居浜工業高等専門学校は、昭和37年に高等専門学校の第1期校として機械工学科、電気工学科および工業化学科の3学科で開校されました。その後、昭和41年に金属工学科、平成2年に電子制御工学科が増設され、更に、平成4年には全国に先駆けて奈良工業高等専門学校とともに専攻科が設置され、常に全国の高専をリードしてきました。

これもひとえに鈴木校長をはじめとする歴代校長並びに教職員のご努力と愛媛県、新居浜市をはじめとする地元自治体、産業界の皆様のご支援の賜物と存じ深く敬意を表します。

高等専門学校は、時代の要請に応えつつ、学術的な基礎力と創造的な実践性を兼ね備えた技術者を養成し、また、5年間一貫教育の長所を生かして学生と教員の緊密な関係に基づく「全人的教育」に力を入れて参りました。

その特徴的なものの一つとして、課外活動では、ロボコンをはじめとする各種コンテストの全国大会があります。これらは、学生の発想力、技術力、チャレンジ精神、自律性などの総合的な技術者力・人間力の育成に繋がっています。また、全国の国立高等専門学校が有する学生寮は、学生が共同生活を通して、社会性や自立性を養う上で大きな役割を果たしています。

このような特色を持った高等専門学校は、時代の変化や社会の期待に応え、有能な人材を社会へ送り出し、今日まで我が国のものづくりの基盤の確立と経済成長に大きく寄与してきたところです。それは、高等教育機関として、産業界をはじめ社会の各方面から高く評価されて参りました。

しかし、産業構造や科学技術に対する意識は急速に変わりつつあります。人類は今や地球規模の環境問題等、多くの課題に直面しておりますし、国際化・情報化が進み、我が国はグローバル経済市場での熾烈な競争に立たされております。知識基盤社会の構築が叫ばれ、持続可能な発展が問われています。それは科学技術に対する社会のイノベーションへの期待であり同時に科学技術に問われる責任と自覚でもあります。

このような変化の中で、我々は創設からの50年を振り返り、これまでの高い評価に安住することなく、改めてその存在意義を自ら問いただし、次なる50年に向けて展望しなければなりません。

高専機構が第2期中期計画の基本方針に「産業構造の変化等を踏まえ、創造力に富み、人間性豊かな技術者の育成という視点に立って、大学とは異なる高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化する」ことを掲げているのも、まさにこのような責任と期待に応えるためです。

また、高専機構は、さらなる飛躍に向け「進化する高専」をキーワードにして、イノベーションの創出、地域連携、グローバル化を視野に入れ、科学技術創造立国の一翼を担う感性と創造性豊かな実践的技術者を育成しつつ、文化の香り高い豊かな社会の発展に大きく寄与して行く所存です。

新居浜工業高等専門学校の教職員並びに学生の皆さんにおかれましても、どうかこの50周年を機に新たな決意とより高い意識を持っていただき、その成果をこの新居浜の地から世界に向けて継続的に発信して行くことを期待しております。高専機構は、そのための活動を支援し、また、協力

していく所存です。

終わりに、地元産業界をはじめ地域の皆様方には新居浜工業高等専門学校に対して、これまで同様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本日もご臨席の皆様のご発展を祈念いたしまして祝辞といたします。

平成24年4月21日

独立行政法人国立高等専門学校機構

理事長 小畑 秀文